

2014年3月期 決算説明会における質疑応答

開催概要

- 【日 時】 2014年5月15日（木）13：30～14：35
【場 所】 株式会社ゼンリン 東京本社（ワテラストワー12階）
【出席者】 代表取締役社長 高山善司
代表取締役副社長 網田純也
執行役員コーポレート本部長 松尾正実

質疑応答概要

以下は、質疑応答の概要をまとめたものです。

- Q1：高齢化社会における認知症の徘徊問題に対して、保険や警備会社との連携も視野に入れた商品開発等が考えられるが、高齢化社会に対する取り組み等について教えてほしい。
- A1：高齢化社会を迎えるにあたり、行動弱者と言われる方向けの商品・サービスについて検討している。今後、高齢化社会となることは事実であり、当社は地図データの活用機会であり、社会貢献につながるものと考えている。
なお、交通事故の多くは高齢者の方であることから、ADAS（先進運転支援システム）への取り組みについても高齢化社会に向けた対応である。
- Q2：自動運転には様々なプレイヤーが取り組んでいるが、ゼンリンのデータや技術の強み、その他のプレイヤーとの違いについて教えてほしい。
- A2：当社は様々なプレイヤーと連携している。
現行のカーナビ機能を超えた、レーンレベルでの正確な自車位置の特定、進路方向の決定、最新情報の取得、車とのネットワーク技術、データ更新技術等について開発を進めており、差別化できる場所である。
自動運転を見据えた各種センサーの補助として、当社が整備/提供する地図データは非常に有効であると考えている。
- Q3：無料地図サービスの台頭についてどのように考えているか。
- A3：大手の無料地図サービス向けに当社の地図データを提供することで、パソコンやスマートフォンでの地図利用が普及し、無くてはならないものとなった。
お話できない部分もあるが、今後は見えないものまでもコンテンツとして整備し、差別化されたサービスとして対価をいただけるようにして行く。
- Q4：新しいデータベースの開発状況について教えてほしい。
- A4：現行サービスを新しいデータベースで対応するために数年かけて移行するものもあるが、新しいデータベースの開発は着実に進んでおり、スピードアップして行く。
2016年には新しいデータベースを稼働させ、情報収集から提供までを抜本的に見直し、マネタイズできるビジネスモデルを構築して行く。

以上